

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2017年11月9日

1. 2018年3月期 第2四半期 連結決算の概要

代表取締役専務 伊東 信平

2. 2018年3月期 通期業績予想 および 今後の見通し

代表取締役社長 山木 一彦

2018年3月期 第2四半期 連結決算の概要

代表取締役専務 伊東 信平

連結損益計算書



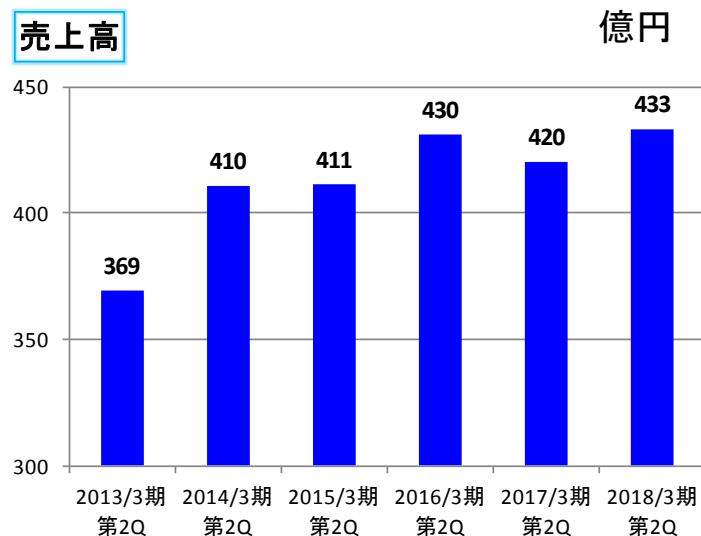
増収による利益の確保により、
売上高、営業利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は **過去最高**

	2017/3月期 第2四半期	2018/3月期 第2四半期		
	実績 億円 %	実績 億円 %	前期差(億) 前期比(%)	為替影響(億)
売上高	420	433	12 103.1%	0
営業利益	32 7.7%	33 7.8%	1 105.0%	0
経常利益	27 6.6%	29 6.8%	1 106.6%	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12 3.1%	20 4.7%	7 158.6%	0

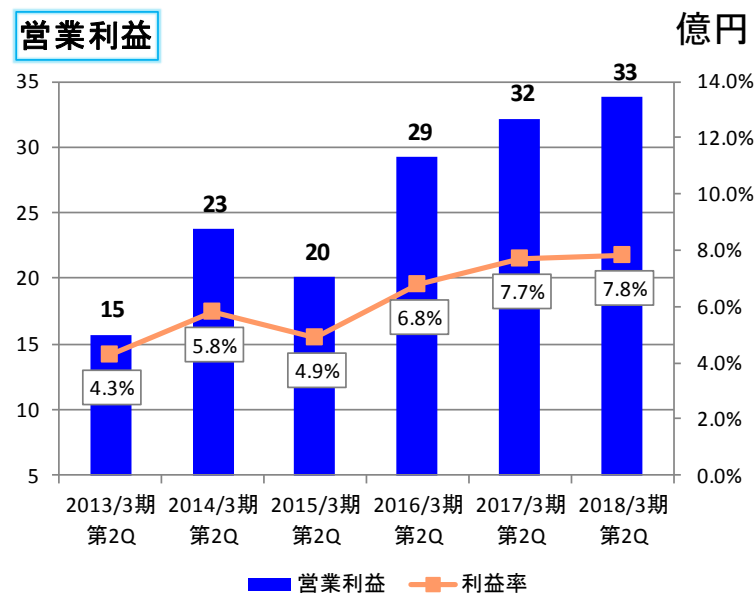
2018/3月期 第2四半期
公表値
億円 %
440
35 8.1%
35 8.0%
24 5.5%

業績推移(2013/3月期～2018/3月期)

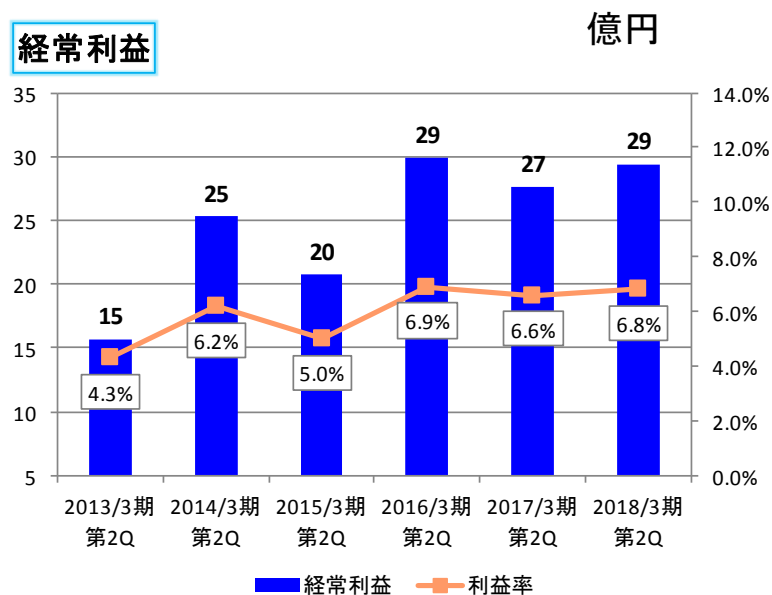
売上高



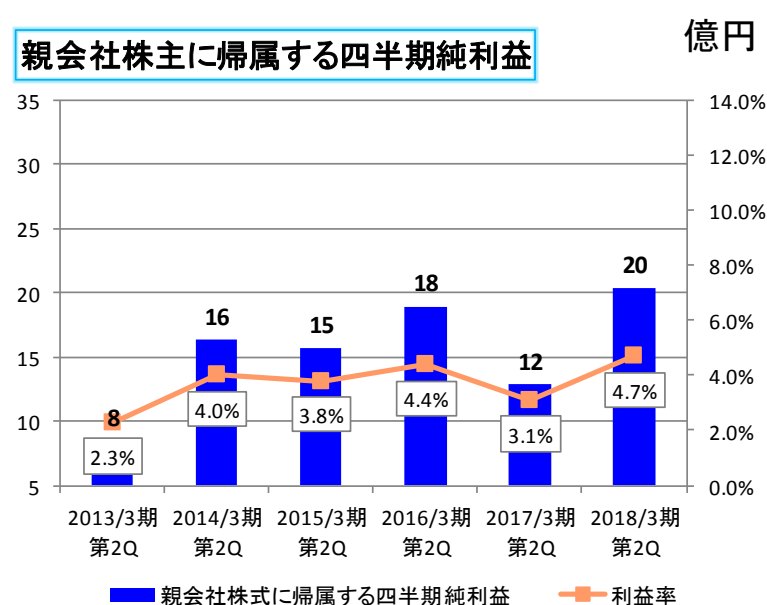
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



セグメント別売上高／営業利益



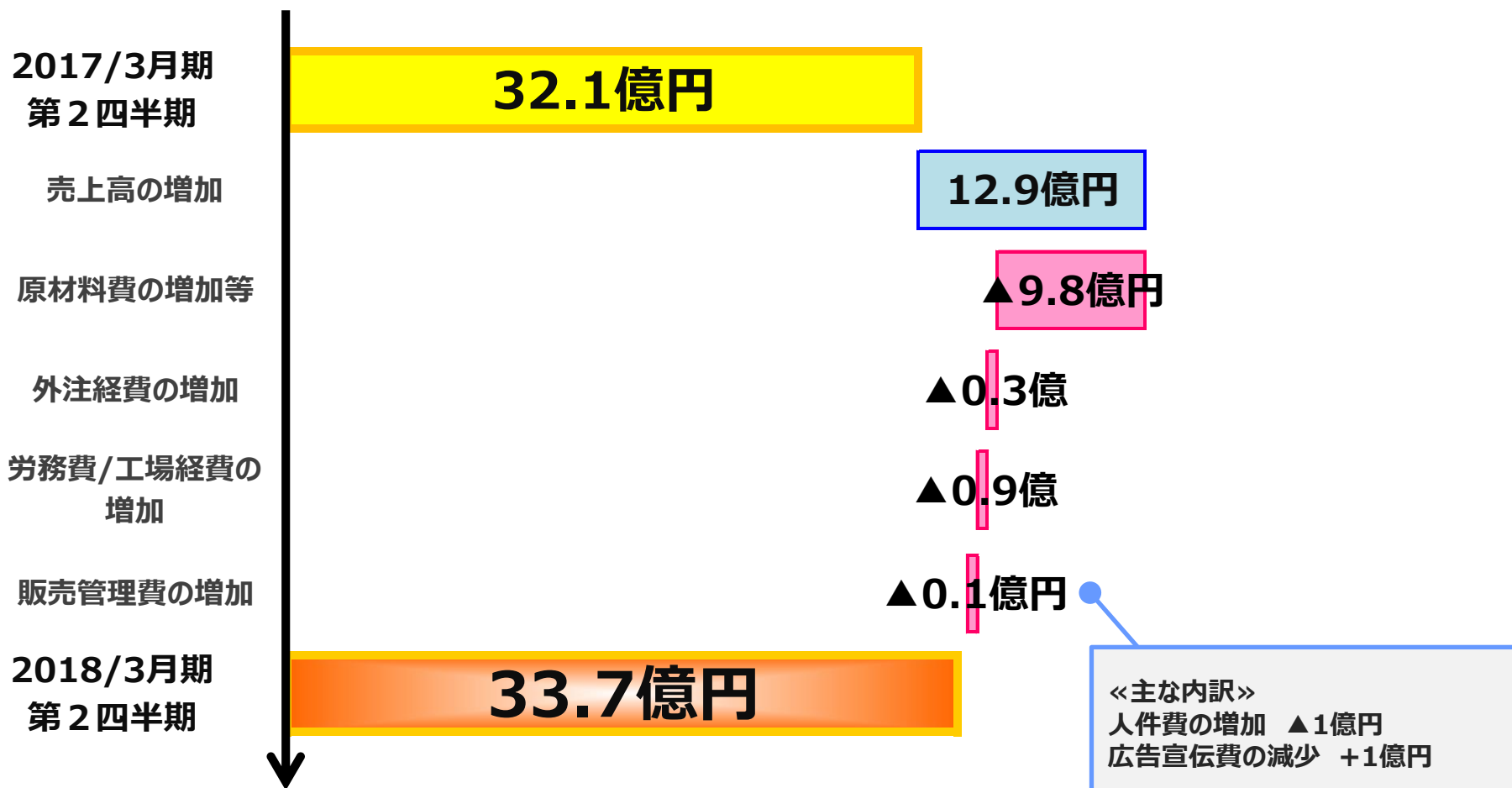
国内食品、国内化成品その他は増収増益
海外は増収となるも**営業利益は伸びず**

		2017/3月期 第2四半期		2018/3月期 第2四半期		前期比	
		実績		実績			
		億円	%	億円	%	億円	%
国内食品事業	売上高	290		293		+ 2	100.9%
	営業利益	32	11.2%	34	11.7%	+ 1	105.9%
	家庭用食品	80		79		△ 1	97.9%
	業務用食品	106		106		+ 0	100.3%
	加工食品用原料等	103		107		+ 4	104.0%
国内化成品その他事業	売上高	29		32		+ 2	106.9%
	営業利益	2	10.0%	3	11.5%	+ 0	123.0%
海外事業	売上高	105		115		+ 10	109.7%
	営業利益	▲ 1	-	▲ 1	-	△ 0	-
	改良剤事業	67		71		+ 4	107.3%
	食品事業	38		43		+ 5	114.0%
セグメント 計	売上高	425		440		+ 15	103.5%
	営業利益	34	8.1%	36	8.2%	+ 2	105.9%
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 5		▲ 7		△ 2	
	営業利益	▲ 2		▲ 2		△ 0	
合計	売上高	420		433		+ 12	103.1%
	営業利益	32	7.7%	33	7.8%	+ 1	105.0%

営業利益の増減要因



売上高の増加により売上総利益が伸長し、営業利益が増加



連結貸借対照表



億円

	2017/3月期 期末	2018/3月期 第2四半期末	前期差 (為替影響)		2017/3月期 期末	2018/3月期 第2四半期末	前期差 (為替影響)
流動資産	600	630	+30 (▲1)	負債	557	565	+7 (▲0)
現金及び預金	180	186	+6 (▲1)	流動負債	306	315	+9 (▲0)
受取手形及び売掛金 (電子記録債権含む)	228	246	+18 (+0)	固定負債	250	249	▲1 (+0)
たな卸資産	173	173	+0 (▲0)	うち、自己株取得による 長期借入金	(190)	(180)	(▲10) -
その他	18	23	+4 (+0)	純資産	539	584	+45 (+1)
固定資産	495	519	+23 (+1)	株主資本	435	470	+35 (+0)
有形固定資産	282	286	+4 (+1)	その他の包括利益 累計額	98	108	+10 (+1)
無形固定資産	7	7	▲0 (▲0)	新株予約権	0	-	▲0 -
投資その他の資産	205	225	+19 (+0)	非支配株主持分	5	5	+0 (+0)
資産 合計	1,096	1,149	+53 (+0)	負債純資産 合計	1,096	1,149	+53 (+0)

連結キャッシュ・フロー計算書



現金及び現金同等物の期末残高は170億円
期首から8億円増加

億円

	2017/3月期 第2四半期	2018/3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の 期首残高	131	162
営業活動によるキャッシュ・フロー	24	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 14	▲ 10
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 17	1
現金及び現金同等物に係る 換算差額	▲ 7	0
現金及び現金同等物の 期末残高	116	170

営業CF

税金等調整前純利益	29
減価償却費	17
売上債権の増加	▲ 18
たな卸資産の増加	▲ 1
法人税等の支払	▲ 10

投資CF

有形固定資産の取得	▲ 12
-----------	------

財務CF

長期借入金の返済	▲ 10
配当金の支払	▲ 5
新株予約権行使	19

2018/3月期 通期業績予想 および 今後の見通し

代表取締役社長 山木 一彦

2018/3月期 通期損益計算書



単位：億円

	2018/3月期 予想			
	予想	%	前期差	前期比
売 上 高	900		+ 28	103.2%
国内食品事業	598		+ 15	102.6%
国内化成品その他事業	63		+ 1	102.7%
海外事業	251		+ 13	105.5%
調整額(セグメント間消去)	▲12		▲ 1	
営 業 利 益	68	7.6	▲2	96.3%
国内食品事業	66		▲0	98.7%
国内化成品その他事業	6		▲0	93.3%
海外事業	0		+ 0	110.8%
調整額(セグメント間消去)	▲5		▲1	
経 常 利 益	62	6.9	▲2	95.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	43	4.8	▲0	99.3%

国内食品事業 [家庭用食品]



◀18/3月期▶ 売上高 158億円 (前期+2億円) 上期実績: 79億円 /前年同期比 97.9%
下期予想: 78億円 /前年同期比 106.3%

下期取組み

■ ドレッシング

・「リケンノンオイル」“天才調味料企画”広告投下やSNSと連動した新規需要の掘り起し



・好調オイル入りドレッシングの更なる強化



オイル入り
サラダデュオ®

■ 海藻商品

・国内産「ふえるわかめちゃん®」に加え、韓国産商品の拡売

・「わかめスープ」のブランド訴求（ホームページ開設）



わかめスープ ブランドサイト



素材力だし®

■ 調味料

・付加価値型商品「化学調味料・食塩を無添加 素材力だし®」の新規顧客層の拡大

国内食品事業 [業務用食品]



≪18/3月期≫ 売上高 220億円 (前期+5億円)

上期実績: 106億円 / 前年同期比 100.3%

下期予想: 113億円 / 前年同期比 105.3%

下期取組み

■ 外食・給食向け等

- ・学校給食用ドレッシング「笑顔でランチ®」の拡販
- ・乾燥わかめ国内産の強化と新市場「冷凍海藻」の育成
- ・「素材力だし®」等の外食・給食ルートへの提案
- ・成長市場へのチャレンジ
⇒ネット通販 キャッシュ&キャリービジネス、老健施設に向けた商品提案



給食向け
笑顔でランチ®商品



冷凍海藻商品

■ 加工食品メーカー向け・コンビニ向け等

- ・大手取引先への“ソリューション型営業”の強化
- ・惣菜向け「機能性調味料」の提案

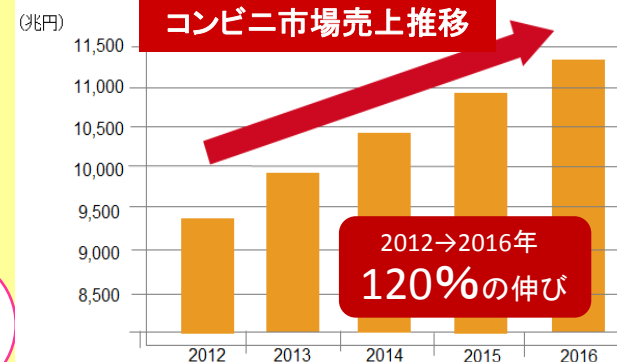


調味料

+

食品改良剤
機能

機能性調味料 惣菜への提案



出典:経済産業省 商業動態統計年報

国内食品事業 [加工食品用原料等]



◀ 18/3月期 ▶ 売上高 220億円 (前期 + 6億円) 上期実績 : 107億円 / 前年同期比 104.0%
下期予想 : 112億円 / 前年同期比 101.9%

下期取組み

■ 加工食品用原料

- ・重点品目の主要顧客への販売取組み継続強化
- ・食品業界で多様化するニーズの先取り提案

■ 千葉工場の新液体ラインの本格稼働と 連動した液体製剤製品の拡売



千葉工場
新液体ライン

■ ヘルスケア

- ・機能性表示食品の深掘と製品拡張

⇒ クロセチン*1 *2

⇒ β-クリプトキサンチン**

*1 クチナシやサフランを由来とする天然成分

目の疲れから生じるピント調節機能の低下を緩和し、
目の調子を整える

*2 睡眠の質の改善効果についても、機能性表示食品の受理に向け
取り組む

** パプリカやみかん等を由来とするカロテンの一種
丈夫な骨を維持したい方へ



クロセチン原料
クチナシ



β-クリプトキサンチン原料
パプリカ

«18/3月期» 売上高 63億円 (前期+1億円) 上期実績: 32億円 /前年同期比 106.9%
下期予想: 31億円 /前年同期比 98.8%

下期取組み

■化成品その他

・農業用フィルム、食品用ラップ等、既存市場の更なる回復

・新用途提案による市場拡張:

化粧品、トイタリー、日用品市場へ向けて

→ 安全性、バイオ特性を持つ機能性改良剤の提案

弱電、車部品等の市場へ向けて

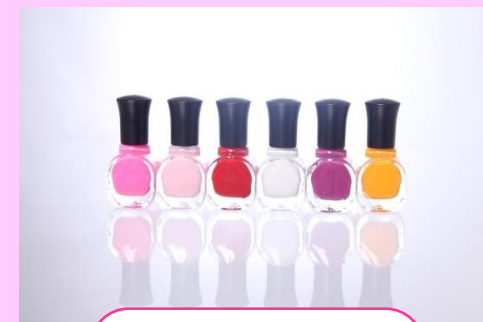
→ 機能性を付与した植物由来の改良剤の提案

⇒植物由来製品の強みと食品用改良剤で培ったアプリケーションの提案

・競争力のある海外工場製品の国内導入および、
グリーン・ケミカル(植物原料由来)の展開



農業用フィルム(防曇剤)



マニキュア(可塑剤)

≪18/3月期≫売上高 251億円 (前期+13億円) 上期実績：115億円 /前年同期比 109.7%
下期予想：135億円 /前年同期比 102.1%

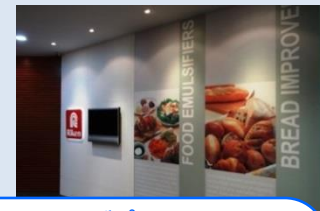
下期取組み

■ 改良剤：リケビタ・マレーシアの設備増強に対応した販売戦略の強化

課題点

- ・「乳化剤原体」 同業メーカーとの競争激化
- ・パーム油、ヤシ油等の乳化剤原料の価格高騰 (⇔ 競合の石油原料由来化成品は原油価格下落)

- ・アプリケーションセンターを活用した付加価値製品「配合製剤」の拡販による差別化
- ・原料高騰に対応した適切な販売設定の継続的働きかけ



シンガポール
アプリケーションセンター

■ 青島福生食品：事業モデル構造改革の早期推進

課題点

- ・原料価格の変動や、中国国内の人件費の上昇等による収益性の低下
- ・販売先（欧州中心）の「仕入れ～代金回収」までのサイクル短縮

- ・欧州輸出に加え、中国国内向け販売ルート of 早期構築
- ・三同企業※認定を背景とした中国国内販売でのブランド力強化

※三同企業：「輸出対応生産設備」「輸出対応製造標準・管理」「輸出対応品質・管理」を備えた企業
中国政府が世界向けに展開してきた「輸出品質維持企業」の製品を中国国内においても消費を促す政策

単位：億円

国内：収益基盤の確立

	2018/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
国内食品事業 計	598	66 11.2%		+ 15	▲0
家庭用食品	158			+ 2	
業務用食品	220			+ 5	
加工食品用原料等	220			+ 6	
国内化成品その他事業 計	63	6 9.9%		+ 1	▲0

海外：構造基盤の強化

	2018/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
海外事業 計	251	0 0.3%		+ 13	+0
改良剤事業	156			+ 13	
食品事業	95			▲ 0	

	2018/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
全体 計	900	68 7.6%		+ 28	▲ 2

通期ポイント

- 「国内食品事業」及び「国内化成品その他事業」については、中期計画のテーマである構造改革の成果により、収益体質への転換が進んでいるため、当初の計画並みの売上高と営業利益を目指す
- 「海外事業」については売上高は前期を上回る見込みだが、営業利益は第2四半期までで前年同期を下回ったため、通期での利益改善が急務となる
- 全社通期では前期を上回る売上高を見込むものの、営業利益は海外事業の不振をカバーできず、前期比マイナス2億円を予想する
引き続き全社で価値提案型の企業運営を図っていく

- 以上を踏まえ、2018年3月期は通期予想の達成を目指す また今中期経営計画の目標の一つである、「2018年3月期のROE 8%以上」について、今回の業績予想修正を踏まえ、7%台を見込んでいる（前期 2017年3月期 6.8%）

各中期経営計画ごとの通期業績の推移



単位：億円

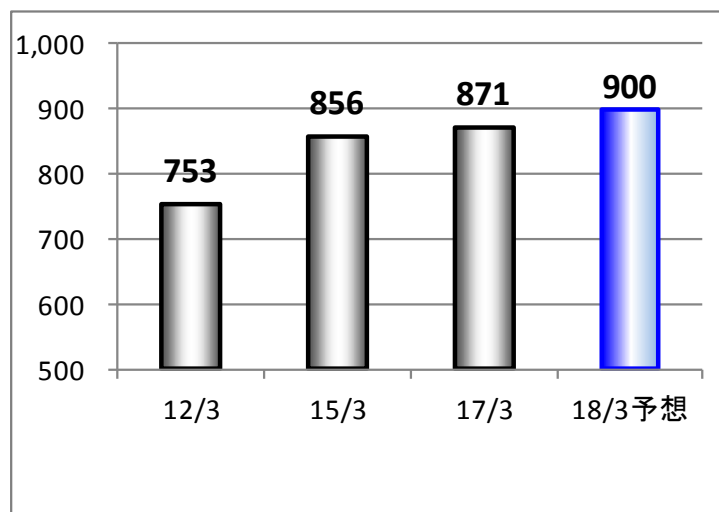
前々 中期計画

前 中期計画

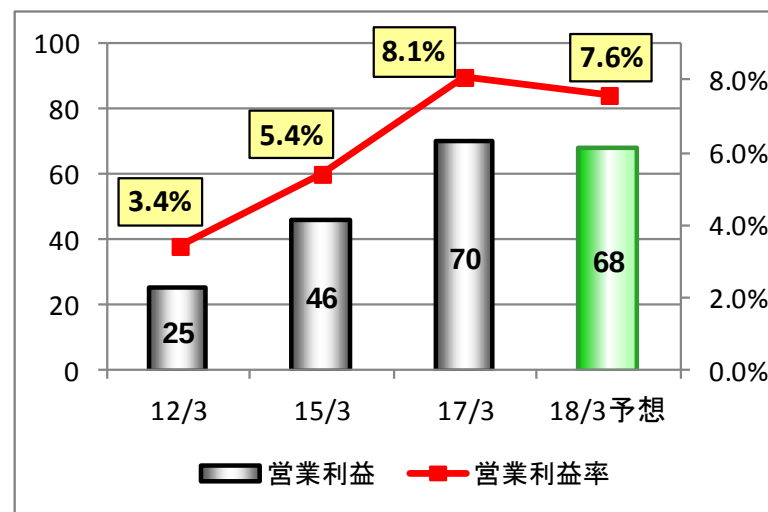
現 中期経営計画

	2012/3月期		2015/3月期		2017/3月期		2018/3月期			
	実績	%	実績	%	実績	%	計画	%	15/3期差	15/3期比
売上高	753		856		871		900		+ 43	105.1%
営業利益	25	3.4	46	5.4	70	8.1	68	7.6	+ 21	146.2%
経常利益	28	3.8	46	5.5	64	7.4	62	6.9	+ 15	132.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	14	1.9	37	4.4	43	5.0	43	4.8	+ 5	113.3%

売上高の推移



営業利益の推移



各中期経営計画ごとのセグメント別売上高・営業利益の推移



単位：億円

		前々 中期計画		前 中期計画		現 中期経営計画			
		2012/3月期		2015/3月期		2017/3月期		2018/3月期	
		実績	%	実績	%	実績	%	計画	%
								15/3期差	15/3期比
国内食品事業	売上高	509		562		582		598	
	営業利益	20	4.0	39	7.1	67	11.6	66	11.2
	家庭用食品	売上高	133	161		155		158	
	業務用食品	売上高	187	202		214		220	
	加工食品用原料等	売上高	188	198		213		220	
国内化成品その他事業	売上高	58		61		61		63	
	営業利益	3	5.9	3	5.9	6	10.9	6	9.9
海外事業	売上高	193		243		237		251	
	営業利益	4	2.2	7	3.0	0	0.3	0	0.3
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 7		▲ 11		▲ 10		▲ 12	
	営業利益	▲ 2		▲ 4		▲ 4		▲ 5	
合 計	売上高	753		856		871		900	
	営業利益	25	3.4	46	5.4	70	8.1	68	7.6
								+ 35	106.3%
								+ 27	168.1%
								▲ 3	97.7%
								+ 17	108.6%
								+ 21	111.0%
								+ 1	102.9%
								+ 2	173.0%
								+ 7	103.0%
								▲ 6	9.5%
								▲ 0	
								▲ 1	
								+ 43	105.1%
								+ 21	146.2%

■ 2017年6月30日 宮城県名取市「ゆりあげファクトリー」竣工

国内わかめ産業の課題

- ・気候変動による生産量、品質の不安定化
- ・生産者の 高齢化、後継者の不足、
苛酷な労働条件による作業負荷

原藻量の減少、価格の高騰

「ゆりあげファクトリー」の役割

◎わかめ製品の前処理加工

- ・名取市の復興計画による閑上地区の水産共同利用施設復興整備事業

◎わかめの優良種苗^{しゅびょう}(※)の選別と生産

- ・高生長種苗や早生・晩生種苗^{わせ おくて}の選抜をおこない、二期作の可能性を追求するなど、わかめの生産性向上を目指します

◎海藻全般の研究プラント

- ・海藻の基礎研究を通じて産業の発展に貢献します

高生長の品種

養殖期間3か月半後の生長の違い



通常の高生長種苗



高生長の種苗

生長早く、大型化した重量で通常の約25%増

※種苗：わかめの養殖で、いかだから吊るす「わかめの苗」のようなもの

CSR経営の推進～取り組みの一例

■ わかめの1年サイクルにおける「ゆりあげファクトリー」が担う役割



養殖漁場

収穫
<開始>

収穫
<終了>



母藻

ゆりあげファクトリー

母藻選び

「ゆりあげファクトリー」
工場内での<種苗生産>

配偶体

海上養殖

採苗

秋

夏

発芽

漁場選定

種糸

種糸設置
(海に馴染)



種苗育成



孢子体≒芽

CSR経営の推進～取り組みの一例



■ 環境への取り組み

理研ビタミンのオフィス部門を含む国内全事業所で
ISO14001の認証を取得し、環境経営に取り組んでいます。



工場での環境教育の様子

■ 食育活動

当社が持つわかめの知見を活かし、学校で
**わかめの生態や栄養などについての食育
授業**を実施しています。



■ 国際協力（国連WFP協会への協賛）

当社は**国連WFP協会**の評議会評議員として、
飢餓撲滅の活動に取り組んでいます。



※本年7月にCSRレポート2017を当社ホームページに更新いたしました。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



お問い合わせ先
経営企画部 広報・IR室
池田・相原
TEL : 03-5275-5835